

▶▶▶ 荒尾市

南新地地区(旧競馬場跡地) 整備事業およびスマートシティ 推進事業



南新地地区の空撮写真

分類

まちづくり

〈SDGs〉関連するゴール

3 すべての人に健康と福祉を	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	11 住み続けられるまちづくりを
-----------------------	-----------------------------	--------------------------	-------------------------

総事業費

6,980,000千円
(区画整理事業のみ、建物等整備費は除く)

計画期間

地域再生計画の認定の日
2021年3月31日～2025年3月31日

数値目標

- 荒尾市が暮らしやすいと感じている市民の割合 80%
- 居住誘導区域内の人口密度 42.3人/ha

人・自然・新たな交流を育む拠点

荒尾市は今、2012年に閉鎖された競馬場跡地を活用し、全く新しいまちづくりに着手しています。跡地の広さは、約35ヘクタール。実に東京ドーム7.5個分です。

まちづくりのコンセプトは「ウェルネス」。誰もが安心・安全に居住・滞在でき、まち全体が賑わいと活力に満ちた健康状態を持続した「輝くようにイキイキしている」状態になるまちを目指し、歩みを進めているところです。

また、Society 5.0の実現に向け、AIやIoTなどの先進的技術を取り入れたスマートシティの取り組みにもチャレンジしています。2019年には国土交通省のスマートシティモデル事業「重点事業化促進プロジェクト」、その翌年には「先行モデルプロジェクト」に選定されました。現在取り組んでいるのは、エネルギー、モビリティ、ヘルスケア、データ利活用の4分野です。

まちづくりのコンセプトであるウェルネス拠点を形成するため、街区ごとに土地利用方針を定めており、住宅のエリアのほか、生活利便施設や公益施設、公園、緑地のゾーンがあります。公益施設ゾーンを中心とした「先進コアゾーン」には、市が整備予定の道の駅や保健福祉子育て支援施設のほか、温浴施設、宿泊施設、運動施設、アウトドア施設などの民間事業者を誘致する予定です。それぞれの施設を単独で配置するのではなく、機能連携・分担しながら、相乗効果で新たな価値を生み出す「機能連携型ウェルネス拠点」の形成を目指しています。



ここがポイント

南新地地区は、JR荒尾駅前という抜群の利便性に加えて、有明海沿岸道路のインターチェンジも設置されます。広大な土地は海に面しており、夕陽は絶景です。寄附をいたたく企業様は、この土地を新しいサービスを生み出す実証実験の場としてご活用ください。



インスタ映えする有明海の夕陽